



結びに託す贈る心。

水引のことあれこれ。



日 本には慶弔時の進物などに水引をかけて贈る伝統が残されています。小笠原流「包結のしるべ」には、「水引は包み紙に霊（たましい）を吹き込む必須の用品」とあります。ちょっとした贈り物でも水引に想いを託して贈る。そんな心遣いが感じられる贈り物は、いただいた方もうれしいものです。



小笠原流「包結のしるべ」(上下巻)を見ると、水引の結び方や包み方などが詳しく記載されている。



「水引と作法」



花結び

淡路結び

「結びの基本形」

「結」は一度結んだらほどけない結び方ということで、結婚、弔事、病氣見舞いなど二度と繰り返してほしくないことに使われます。「淡路結び」は結びきりの一種ですが、こちらの方が広く使われています。「花結び」はほどくことができる結び方で、何度でも繰り返してよい一般的な祝いに使われます。

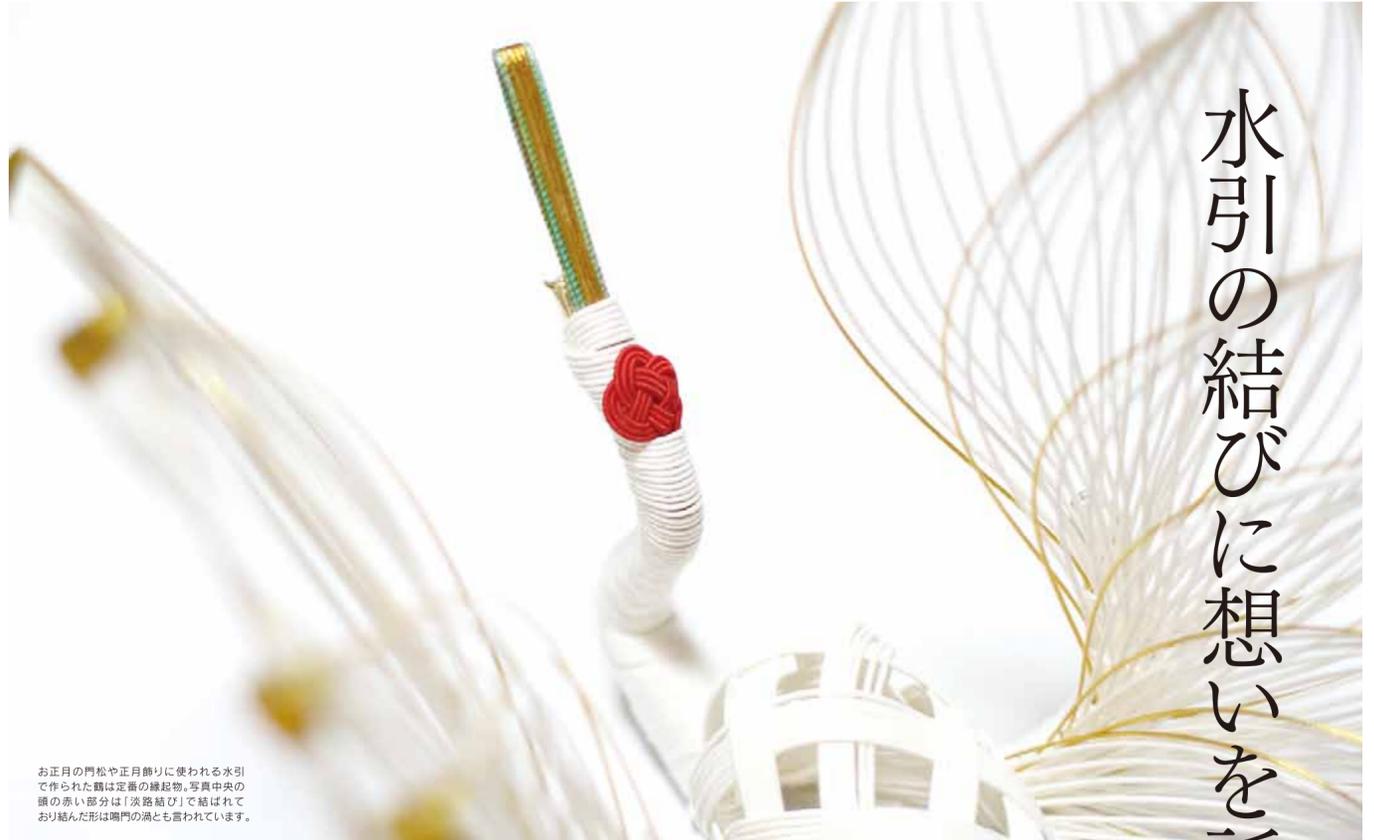


江戸時代「元結といえは文七元結」とまで言われ、全国的なブランドになった飯田の元結。

「落語の文七元結」

「元結」とは、日本髪を結うときに使われる専用の紙ひものことです。現在でも大相撲の力士の揃（まげ）や歌舞伎役者のカツラなどに使われている飯田元結を、江戸時代に白くてやががあり切れにくい元結に改良したのが、美濃国から来た紙すき職人の桜井文七。この方が落語で有名な人情噺「文七元結」のモデルといわれる文七さんです。

水引の結びに想いを託した日本人



お正月の門松や正月飾りに使われる水引で作られた鶴は定番の縁起物。写真中央の頭の赤い部分は「淡路結び」で結ばれており結んだ形は鶴門の頭とも言われています。

職人技で日本の伝統を担ってきた信州飯田

南信州の中心都市である飯田市は、全国シェア7割を誇る水引の産地です。水引の歴史を紐解くと、607年に遣隋使の小野妹子が日本帰国の無事を祈願して、紅白の麻布を隋からの荷物に結びつけたという伝承が残されています。平安時代になると宮中の宗教行事における贈答品に雅やかさを醸す装飾として水引が使われるようになったといわれています。「水引は和紙をこより状にした紙ひもに、水に溶かした米糊を塗り付けて乾燥させ着色したものです。このはぎ場での作業が、あたたかみ水を引いているように見えたことから「水引」と呼ばれるようになったといわれています。



1)水引細工で使用される水引は数十種類。関島水引店の壁にかけられたさまざまな色や質感の異なる水引。2)表紙の層層飾りを作る関島社長。堅固しく考えず、折り紙などを使い、あとは自宅の周囲にある植物を結びつけるだけで、自分でも層層飾りやお正月飾りが作れるという。

「今では飯田といえは水引ですが、髪を結っていた江戸時代、白くて丈夫な飯田の「文七元結」は全国的に人気がありました。水引は元結ほど強度がいらぬこともあり、当時水引は元結原紙の端材や劣化紙で作られ、馴染みの商人に元結のついでに売ってもらっていたようです。」と関島社長は言います。ところが、



宝船

明治4年、太政官発令の散髪脱刀令を境に元結の需要は激減します。その頃、飯田元結の商人が関西で使われていた淡路結びを覚えて戻り、それを元に当時の職人たちが結納などに使われる立体的な水引工芸へと発展させました。こうして飯田水引は昭和初期に最盛期を迎えます。「結ぶ、結びつく」という言葉には心地いい響きがありますね。の仕事をしていると、後になって「緑でつながっていたと感じることがよくあります。水引はまさに人と人を結ぶハッピーアイテムです。」関島社長の言葉のように、昔から日本人は緑と呼ばれる目に見えない結びつきを大切にしてきました。現在でも、何度あってもうれしいお祝いの贈り物には「花結び」、一度きりであつてほしい病氣見舞いには「結び切り」というように、結びに想いを乗せて使われています。あえて言葉ではなく水引の結びに想いを託すおゆかしい感性は、これからも伝えていきたい日本人ならではの心遣いです。

「くれない」

平安時代に宮中で使われるようになった「紅白」水引は、染料に当時最高級の口紅を用いたことから「くれない」と呼ばれています。一見すると黒白に見えますが、赤い色を染めてその上から特殊な黒の染料を重ねてあります。京都で伝事に黒白水引ではなく、黄白水引が使われるのは、皇室の「くれない」と見間違えやすいためだといわれています。



皇室御用達の「くれない」は光の当たり方できらきらと玉虫色に光って見えます。



飯田市の風景

飯田市 天竜川左岸から飯田市街地とその背後に中央アルプス南端の山々を望む。写真左に向かって流れる天竜川はこの先で谷が狭まり標勝地として知られる天竜峡に至る。



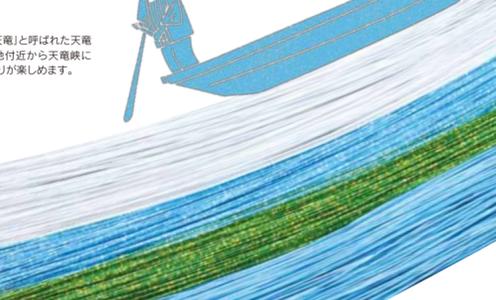
飯田藩主堀親昌が飯田特産の凍み豆腐に水引を掛けて将軍に献上していたという伝承が残っている。



まっすくにはか飛ばないトンボは「勝虫」と呼ばれ、武将が好んだ縁起のいい虫。



舟下り その昔「隠れ天竜」と呼ばれた天竜川、飯田市街地付近から天竜峡にかけては舟下りが楽しめます。



水引の結び方は日本で独自に発達したもので、公家や武家の各家で独自の結び方がありました。水引はほどくと腰が弱くなつて結び直しが利かず、結び直せばわかるため、お茶壺や献上する食物を独自の結び方で結んだといわれています。これは美しいだけでなく、誰かが開いて中身を差し替えることを防ぐという側面があり、家ごとの結び方は一子相伝でした。

「伝家の結び」

結 納やお祝いの飾りで使われる松竹梅や鶴亀、宝船、海老、鯛などは、水引で作られた縁起物。結納は地域によつて習慣が異なり、関西型は公家流の文化を伝承し一般的に豪華絢爛で色鮮やかな立体物が好まれ、関東型は武家様式の伝統を受け継いだ実質的で平面的な質素なものが用いられます。

「水引は縁起物」



関島水引店 飯田水引を使った水引製品を企画、製造する関島水引店。手作業による職人技で生み出されるオリジナル水引製品は定評があり、芸能人の愛用者も。飯田水引の普及活動として、国内外で水引制作の実演も行っている。 飯田市舟上山2740 ☎0265-22-6622

Miyama Information

要注意!

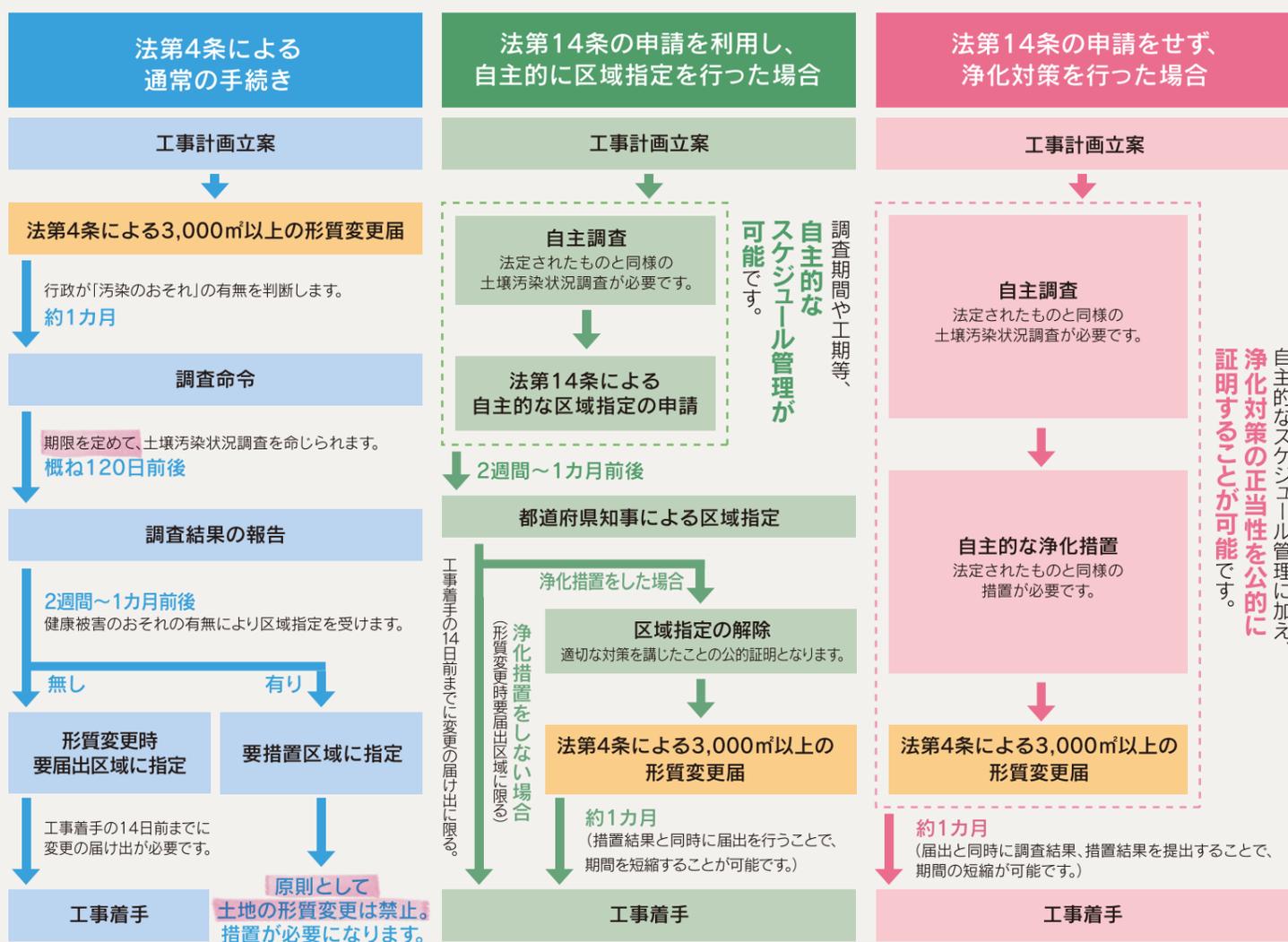
土地の造成工事は 工期延長の可能性がります。

3,000㎡以上の土地の形質変更^(※1)は都道府県知事等への届出が必要です(土壤汚染対策法第4条)。地歴等から「汚染のおそれあり」と判断された土地には調査命令、結果報告、要措置区域等^(※2)への指定の手続きがあり、想定外の工期延長を強いられる事案が増えています。

ミヤマでは工期を正確に把握する為の土地の事前調査、汚染があった際の自主的な区域指定申請^(※3)、正当性を公的に証明できる浄化対策^(※4)の実施を提案しています。



土壤汚染対策法による3,000㎡以上の土地を形質変更する際の手続き



- (※1) 土地の形状を変更する行為全般をいい、掘削と盛土の合計の面積が3,000㎡以上であれば届出が必要です。ただし、形質の変更の内容が盛土のみである場合は届出不要です。
(※2) 汚染のある土地は健康被害のおそれの有無により、措置が必要な「要措置区域」と形質変更時のみ対応が必要な「形質変更時要届出区域」に分類されます。
「形質変更時要届出区域」に指定された土地は形質変更の14日前までに届出を行う必要があり、汚染土壌の取り扱いに関し内容確認が行われます。
(※3) 土地の自主調査を行い事前に区域の指定(形質変更時要届出区域に限る)を受けることで(土壤汚染対策法第14条)、4条の届出に伴う行政手続きを省略することが可能です。
(※4) 区域指定された土地の浄化対策を行い指定解除を受けることで、法律に基づいた適切な対策が講じられたことを証明することが可能です。

総合環境企業 ミヤマ株式会社

本社/〒381-2283 長野県長野市丹波島一丁目1番12号 TEL.026-285-4166(代) FAX.026-283-0011

- リサイクルセンター/長野・松本・東京・燕・秋田・名古屋・大阪 ■工場/長野・中野・上越・分水・燕・大町
- 技術開発センター ■EM開発センター ■装置機材センター ■保全機材センター
- 名古屋プラントサービスセンター ■新潟プラントサービスセンター ■関西プラントサービスセンター
- 営業所/盛岡・秋田・仙台・郡山・宇都宮・水戸・新潟・長岡・燕・上越・中野・長野・上田・松本・諏訪・甲府・前橋・埼玉・東京・千葉・横浜・静岡・富山・名古屋・京都・大阪

詳しくは当社ホームページへ <http://www.miyama.net/>

PIGEON POST vol.07

発行日:平成24年1月1日 発行人:南 克明 編集:ミヤマ株式会社 広報室 デザイン:トドロキデザイン